

## 次年度における市町村図書館等の振興策の方向性（案）

## 前回(2/14)の主な意見

- 「本を通して人をつくる」こと、住民が有意義に生きることが図書館振興の目指す姿、最終的な目標
- 図書館が絶対に必要なものであるということを**首長や所管課と共通理解する機会を設けることは重要**
- 市町村が図書館で何をしたいのかを明確にする、県はそのブランディングの支援をするべき**
- 市町村向けの研修は**企画力や図書館のモチベーションを高める内容が重要** いま、具体的に、どういう人を育てるためにどういう内容で行っているか、それが分かればアドバイスできる。
- 学校図書室の本も住民が借りられるような仕組みがあっても良い
- 読書活動支援員制度（H21年度～H24年度）があった頃は図書館活動が活発であった
- 図書コーナー配置だけでなく、その場所に人が配置されていることが重要**
- ニーズに対してではなく、**ニーズを掘り起こすことが必要**

## 市町村図書館等の取組状況及び聴取結果 まとめ

## (1) モデルとなる取組

- ☆「いの町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき子どもに本を通じた豊かな感性・創造力の育成を目標に本との出会いの提供（いの町）
- ☆村の基盤産業である農業に重点を置いた資料収集・サービスに取り組む（日高村）
- ☆夜間開館の実施や、物販の検討、館内での飲酒の一部容認など、従来型ではないサービスを指向（栲原町）
- ☆高齢者や病院、老人ホーム等が多い**地域的な特性**があり、毎月、町内8施設に図書館が選んだ貸出本10冊を配置（越知町）
- ☆高齢者などの人が集まる場所に移動図書を実施し、地域に図書をなじませている（津野町）
- ☆返却のしやすさを重視し、2つの図書館や役場、学校でも図書の返却ができる（津野町）
- ☆図書館バス(2トトラック、1600冊以上搭載)による遠隔地域の巡回を実施。バス専任職員が**地域のニーズに合わせて選書し、積替え、貸出手続きなど1人で担っている**。また、会社や商店、郵便局、道の駅などの新規ステーションの獲得に努めてきた（いの町）

	課題と考えていること	県への要望
ヒト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サービスを広げていきたいが<b>人員が足りない</b></li> <li>○代替職員の配置が必要ため<b>研修に参加しづらい</b></li> <li>○ボランティアの確保とその養成が必要、また、ボランティアの組織化が難しい</li> <li>○職員が頻繁に異動し専門知識を持つ人材が育たない</li> <li>○臨時職員(兼務)対応のため日常的なサービス提供は困難</li> <li>○県の支援員制度が廃止され人員を配置できなくなった【参考(計画15p)】</li> </ul> 専任職員がいる図書館：9/23市町村 専任の司書・司書補がいる図書館：5/23市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人員配置のための補助金の充実</li> <li>●<b>職員の資質向上のための研修や、交流の機会の充実</b></li> <li>●職員の司書資格取得の支援</li> <li>●県外研修に係る旅費などへの財政支援</li> <li>●司書有資格者の人材バンクのような取組</li> <li>●<b>図書館関係職員の人事交流</b></li> <li>●<b>オーテピアでの長期研修の受け入れ</b></li> <li>●<b>ボランティアの育成支援</b></li> <li>●教育委員会以外も対象とした図書研修</li> </ul>
(サービス含)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書購入費の確保が課題</li> <li>○<b>働く世代の利用が少なく</b>、開館時間延長の要望がある</li> <li>○高校生世代の利用が少ない</li> <li>○効果的な広報が課題</li> <li>○HPやSNSなど情報発信ツールを充実させたいがノウハウや時間がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イベントの題材や講師、広報についてのアドバイス</li> <li>●公立大学などの教員による講演会開催の仲介</li> <li>●蔵書のマンネリ化防止のための県立巡回図書回数増</li> <li>●図書館のない自治体への児童図書の長期貸出の充実</li> </ul>
(設備含)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館システム更新に係る予算確保が課題</li> <li>○施設の老朽化や駐車場不足で利用率が低い</li> <li>○一部住民から図書館設置の要望もあるが予算・職員など検討課題が多い</li> <li>○手書きの図書カードで手続きを行っており負担が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治体への図書館設置に向けた働きかけ</li> </ul>

## (分析)

多くの市町村(教委、首長部局双方)において、図書館及び図書館行政の施策としての優先度が必ずしも高くなく、そのことがヒトやモノの充実につながらない要因となっている。  
 →優先度をあげるための手段の一つとして、住民ニーズの掘り起こしが必要である。

モデルとなる取組は多様で、地域の特性や実情、ニーズを踏まえて、目的をもって展開しているケースが多い。  
 →こうした取組を水平展開するうえで、まずは、それぞれの地域で必要とされる図書館サービスを明らかにする必要がある。

ヒトに関する課題・要望は「量」と「質」の両面から多くあげられている。  
 →人員配置への直接的な補助は財政面でのハードルが高く、効果も一時的なものになりやすい。中長期的に図書館振興につなげる観点で「質」の向上への支援が必要。

モノ(サービス含)の課題は図書購入費のほか、若年層・働く世代の利用が少ないこと、効果的な広報が多くあげられている。図書館に新たな層を取り込むための手立てへの支援が求められている。

10の市町村において、図書館又は図書室の整備計画があり(資料3)、多くはホールや公民館等との複合施設として整備される見通し。  
 →現時点で未着工のものもあり、整備を機に図書館振興に向けたビジョンづくりを働きかけることは有効。

設備面での補助は財政的に困難。  
 →既存の資源を活用した読書環境充実の検討。

## 方向性（案）

- 市町村(教委、首長部局双方)に図書館の重要性、意義を理解してもらうための取組  
 例：市町村教育長や図書館行政所管課、首長部局(地域振興や財政部局等)を対象としたセミナー・研修など
  - オーテピア高知図書館サービス計画の着実な実施  
 例：市町村のニーズを掘り起こす企画・提案の実施
  - それぞれの市町村における図書館振興に向けたビジョン(目指す図書館像)づくりを支援する取組  
 例：市町村版図書館振興計画策定への支援(当該市町村における教育大綱や総合戦略を意識した計画策定に向けたフォーマットの提供など)
  - 中長期的な専門人材育成やボランティア育成を支援する取組  
 例：オーテピア高知図書館への長期研修や人事交流の検討など
  - オーテピアサービス計画の着実な実施  
 例：若年層を取り込む企画展示や、市町村職員向け研修の充実(企画力、モチベーションを高める内容、効果的な広報など)
- ※再掲
- それぞれの市町村における図書館振興に向けたビジョン(目指す図書館像)づくりを支援する取組
  - 集落活動センターや学校図書室の活用を促す取組